

H25 年度 戦場ヶ原周辺における外来植物除去活動について

1) はじめに

日光国立公園の奥日光地域では、オオハンゴンソウ等をはじめとした外来植物が広範囲に繁茂し、ホザキシモツケやヤナギラン等の貴重な在来植物への影響が懸念されています。

そこで、日光パークボランティア（以下「NPV」）と環境省日光自然環境事務所（以下「日光NCO」）は、奥日光地域の戦場ヶ原において、合同で外来植物除去活動を進めてきており、今年で6年目を迎えました。

本報告書は、平成25年度に実施された上記の外来植物除去活動の結果報告や今後の方針等を取りまとめたものです。

2) 活動内容

a 除去対象物

ハルザキヤマガラシとオオハンゴンソウを基本に、素人でも識別が容易で除去しやすい（抜き取りやすい）ものとししました。

b 活動区域

日光国立公園の特別保護地区に指定されている戦場ヶ原周辺の6カ所で実施しました（図1参照）。

c 除去方法

根ごと除去し、ビニール袋に入れ密封したうえで、中宮祠ストックヤード又は日光NCOに運搬して適正に処分しました。

3) 除去結果

今年度の外来植物の除去数（株数）は、計1916株で、内訳は、ハルザキヤマガラシが1137株、オオハンゴンソウが59株、その他（ヒメジョオン類、フランスギク等）が722株でした（表1参照）。



図1 活動区域図（国土地理院発行 1:25,000 を基に作成）

表1 H25年度活動結果一覧表

月	日	活動者		活動区域						除去数(株)					
		NPV	日光NCO	①	②	③	④	⑤	⑥	ハルザキ ヤマガラシ	オオハンゴンソウ	ヒメジョオン類	マツヨイグサ類	その他	合計
5	16	4名	櫛木、中野	○	○	○				137					137
	28	5名		○						635					635
6	13	3名	中野	○				○		167					167
	25	3名		○	○	○				149					149
7	11	1名					○	○			24				24
	30	1名		○				○		47		220	3	45	315
8	8	3名						○				300	30	50	380
	27	2名					○	○	○		35	21	37	16	109

ハルザキヤマガラシ

表2 活動区域別の除去株数の経年変化（ハルザキヤマガラシ）1

活動区域	各年度					
	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①		9038	3537	1844	75	890
②		1965	3198	1426	144	59
③		3698	1766	653	104	114
④		0	0	0	0	0
⑤		0	0	0	0	0
⑥		334	30	301	449	0
年度合計		15035	8531	4224	772	1063

※ H20年度はカウントがkg単位であったため除外した。

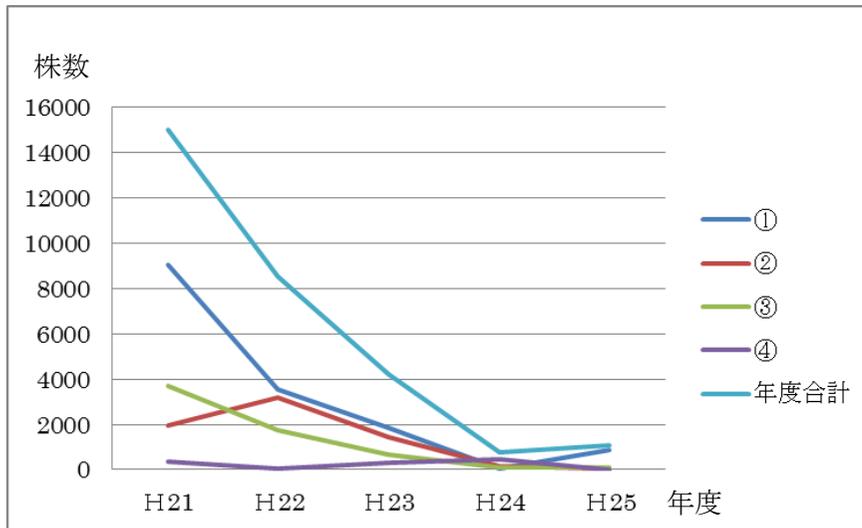


図2 活動区域別の除去株数の経年変化（ハルザキヤマガラシ）2

※ ⑤、⑥では定着が確認されていないため除外した。

オオハンゴンソウ

表3 活動区域別の除去株数の経年変化（オオハンゴンソウ）1

活動区域	各年度					
	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①		320	97	0	0	0
②		0	0	0	0	0
③		0	0	0	0	0
④		443	248	177	16	10
⑤		0	8	219	143	27
⑥		5	10	10	18	1
年度合計		768	363	406	177	38

※ H20年度はカウントがkg単位であったため除外した。

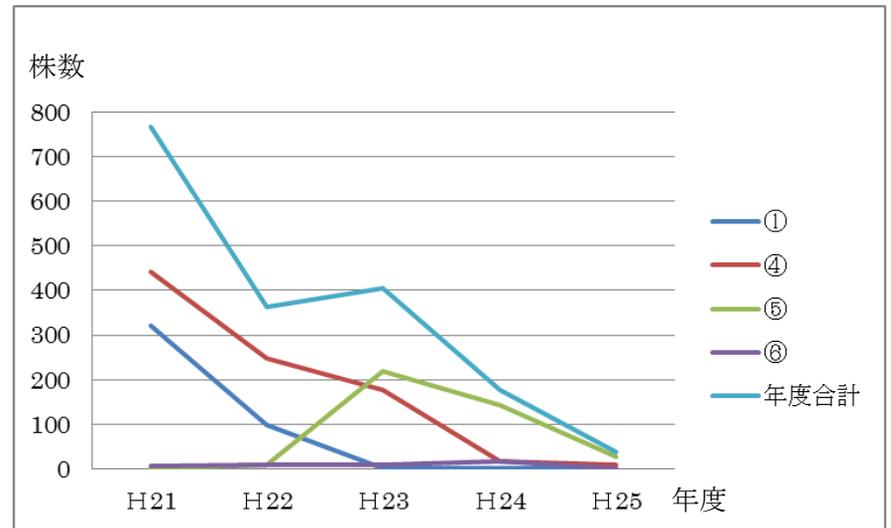


図3 活動区域別の除去株数の経年変化（オオハンゴンソウ）2

※ ②、③では定着が確認されていないため除外した。

【ハルザキヤマガラシ】

①においては、昨年度の除去数 75 株に対し、今年度は 890 株と大幅に増えていますが、ハルザキヤマガラシの個体数が大幅に増えたためでなく、今年度はロゼット状の段階でも積極的に除去したためと思われます。⑥においては、昨年度までは 30～449 株を確認し、除去していましたが、今年度は 1 株も確認できなかったことから、消失した可能性はありますが、今後も注意深くモニタリングする必要があります。なお、④、⑤においては、過年度を含めハルザキヤマガラシの定着は確認されていません。

【オオハンゴンソウ】

①においては、H23 年度以降、オオハンゴンソウの定着は確認されておらず、今年度で 3 年が経過したことから、オオハンゴンソウが消失した可能性は高いですが、今後も注意深くモニタリングする必要があります。なお、②、③においては、過年度を含めオオハンゴンソウの定着は確認されていません。⑤においては、H22 年度の 8 株に対し、H23 年度では 219 株に大幅に増加しましたが、H24 年度以降は減少傾向に転じました。

4) まとめ

記録を継続し始めた H21 以降、一時は前年度より除去数が増加した場合も認められましたが、これは年度によって活動回数や活動人数等が異なるための影響であって、相観的には年度を重ねる度に両種の大群生が小規模化、又は消失といった具合に顕著な衰退が確認され、除去圧による一定の効果が現れていると思われます。

しかし、両種を含む除去対象種は奥日光では広範囲に定着し、また、繁殖力が強いものばかりです。一過性で終わらず、今後も継続した除去活動を実施することが必要です。

5) 今後の方針

戦場ヶ原周辺では、当該活動区域以外にも除去対象種が定着していることが確認されています。特に戦場ヶ原周回線歩道と湯川沿いに挟まれた岸边には、ヒメジョオン類が多数定着し、また、オオハンゴンソウも個体数は少ないですが、確認されています。当該地と戦場ヶ原はほぼ連続して接していることから、戦場ヶ原への侵入が進まないよう、モニタリング等を検討していきたいと思えます。